

歯学部生の今

歯学科 2年 稲田 衡一

新潟大学歯学部に入學して早くも1年が過ぎ、歯学部としての専門科目を学び始める2年生になりました。1年生のときに私は、先輩から「歯学部生は2年生からが本番で、勉強も部活も格段にやるが増えるため忙しくなる」と教わりました。だから当時の私は、来年の自分は一体どれだけ忙しい毎日を過ごすことになるのだろう、と考えていました。そして現在、私は2年生になり、それなりに忙しい日々を送っています。しかし、それは1年生の頃に思い描いていたものと全く異なる日々でした。歯学部棟で勉強するはずが、自宅学習を余儀なくされ、忙しくなるはずだった部活動は活動停止になり、代わりに毎週出される山のようなレポートをこなす毎日です。季節と授業は進んでも、春休み以降は大学に通えていないため、正直、まだ春休みが終わった気がしません。新型コロナウイルスの流行はこれからも続くと考えられるので、大学構内も当分は閉鎖されたままだと思うと気が遠くなります。他方で、小学生、中学生、高校生はすでに学校が始まっており、社会人も多くの会社で通常勤務が再開されていることを考えると、大学生だけがいつまでこの状況に耐えなければならないのだろう…と思わないこともありません。これは、おそらく私だけでなく、多くの大学生が同じように考えていることだと思います。

しかし、もしこの状況で大学が再開されれば、大学は人と人との接触の機会が頻繁に起こる場であることから、大学生はその分、新型コロナウイルスに感染しやすくなるでしょう。そして、新型コロナウイルスによって引き起こされるCOVID-19は未知の部分が多く、その症状が完全に把握されたわけではないので、危険性も明らかではありません。加えて、治療薬やワクチンも開発されていないというのが現状です。従って、学生を保護するという点から鑑みると、このコロナ禍における大学側の判断は間違っていないと考えられます。そして私たち大学生は、大学側の対応の意図を汲んで、不要不急の外出を極力避ける生活を今後も続けていくべきであると考えます。

私は今年の5月で成人したので、今夏は二十歳の夏として、私にとって特別なものになるはずでしたが、このような自粛の日々を送ることになってしまい、非常に残念に思います。しかし、私が不要不急の移動をしないということが、新型コロナウイルスの感染拡大の抑え込みに少しでも繋がると信じて、ディズニーランドやUSJに行きたい気持ちをグッと我慢して家に引きこもっています。先ほども申しましたように、私の中では未だに春休みが続いていますが、いつの日か開けることを信じて、とりあえずこの原稿を書き終えたら、テスト勉強に取り掛かろうと思います。

歯学部生の今

歯学科2年 小杉沙綺

2年生に進級して、学習内容が教養的なものから専門的なものに変化しました。例年どおりでしたら、それに伴い通学するキャンパスも旭町キャンパスへと変わり、歯学部の先生方から直接講義していただけるようになるので、それを楽しみにしておりました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年はオンライン授業となってしまいました。先生方の講義を直接聴くことができず、さらに、お会いする機会が少ないが故にお顔とお名前が一致していない先生方もいらっしゃるのです、少々残念な思いです。しかしながら、変則的なこの状況下でも、私たちの学びが有効なものになりますよう、たくさんの工夫を凝らし、授業をしていただいております先生方には、深く御礼申し上げます。

上述のとおり、今年はオンラインにて授業を受けていますので、なかなか同級生に会う機会もなく、少々寂しい毎日を過ごしております。授業の形式は、Zoomを用いて講義をしてくださったり、事前に配布してくださったレジュメを用いて自主学習を進めたり、各科目にて様々ですが、毎回の授業ごとに理解度を図るための課題があり、毎週それに取り組みつつ、理解を進めております。同級生と直接会う機会は少なくなっておりますが、自主学習での理解に自信がないときや、課題に解答するうえで生じた疑問などを、電話で話し合ったりして、積極的に連絡を取り合っています。その際、勉強と関係のない日常的な会話もして、お互いの近況報告をしたり、くだらないことで笑い合ったりすることが、コロナ禍の少々窮屈

な日々の息抜きとなっております。また、先輩方からもLINEなどのコミュニケーションツールを用いて、日々の勉強やテスト勉強のアドバイスを頂き、1人で学習していることによって生じる不安を解消することができています。自分の勉強でお忙しい中、とても有用なアドバイスをくださる先輩方にもとても感謝しております。

また、部活動に関しましては、なかなか活動することができていないのが現状です。現在は、大学に感染症対策を提出し、許可された部活動から活動を再開していますが、私の所属する硬式テニス部はオフシーズンとも重なり、昨年度末から練習ができていません。また、第52回全日本歯科学生総合体育大会も中止となってしまい、楽しみにしていた分とても残念でした。この文章を執筆している8月末時点では、10月から活動が再開できる予定ですので、次の大会に向けて練習ができることがとても楽しみです。

このように、今、授業や部活動などの様々な日常が従来の形で行うことができなくなっています。日常が日常でなくなった今、今までの生活に対してのありがたみを感じ、その日常がはやく戻ってきてほしいと願うばかりです。それでも、新しい様式に適應して、今までと同等のクオリティで学習を進めていかなければなりません。新型コロナウイルスの流行が1日でも早く収束し、日常が戻ってくる日を願いつつ、新しい環境での学習に食らいついていけるよう、これからも努力していきたいです。

歯学部生の今

歯学科3年 金岡史也

私達歯学科54期はこの春無事3年生へと進級することができました。ここまでの2年間はそれぞれのキャンパスでの生活に慣れることに精一杯であっという間に過ぎてしまいました。そして3年生では2年生の時よりもより歯科に関係してくる専門科目を学び始めて、身が引き締まる思いで日々を過ごしています。

早いもので既に前期が終了しましたが、その中でも特に印象深かったのは人体解剖学実習です。やはり3年生といたらこれだと思えます。まだ全ての日程が終了したわけではないものの、その内容は非常に濃いものでした。例年言われている通り、教科書で図や文字の羅列で説明された知識と、実際の御献体とでは細かい位置やその関係性が個体差などによって異なり、複雑なものになっていました。事前の知識だけでは足りない、その為日々の授業の復習の重要性を感じています。口頭試問では、毎回緊張感に包まれながら自分の知識を答えていく、最初の授業でも説明されましたが先生との真剣勝負といった感じでした。残り1回ありますがまたあの張り詰めた空気の中に放り込まれると思うだけでも胃が痛くなってきます。そんな人体解剖学実習は今年特例で週3回あり、

非常にハードなスケジュールでしたが残り僅かとなりました。当然のことですが気を抜かずに最後まで予習復習を欠かさず取り組んでいきたいです。

今年は異例のスケジュールによって授業の開始が遅れたり、対面授業の中止によって普段よりも自学自習を余儀なくされました。もちろん基本的には講義を先生方の前で受けることの出来ないデメリットの方が大きいのですが、これは自分の勉強に対する態度を改める非常に良い機会になったと思います。非対面授業特有の発言のしやすさなど、いつもとは違う形態で行われたことで全てがマイナスになった訳ではないと感じました。

歯学部は6年制度なので正直まだ3年生、という感覚でいたのですが他の学部の同級生がもう3年生になってしまったと言っているのを見て、軽い気持ちでいたけれども学生生活は長くないのかもしれないと考えるようになりました。いつかは自分も社会人になっているということを考えることもありませんでしたし、現実味もまだ感じてはいませんが、その時に困らないように今丁寧に勉強していこうと思います。

歯学部生の今

歯学科3年 鍵本朱里

私たちは2年生を無事終え、3年生になることができました。今年は新型コロナの影響により、対面授業はほとんど無くなり、オンライン形式の授業が行われています。オンライン形式の授業が始まった当初は多少不安もありましたが、各先生方が非常に色々考えて授業をして下さっているおかげで、しっかり勉強を進めることができている。

3年前期で最も印象的な科目は、なんと言っても人体解剖学実習です。今年の前期はオンライン形式の授業が大部分を占めていますが、人体解剖学実習は対面で行われています。人体解剖学の基礎知識は2年生の時に勉強しており、その時にも教科書上の基礎知識を3次的に理解するように努めていました。しかし、実際にご献体を前に解剖を進めていくと、今までの理解では難しいこともあり、知識をただ暗記しているだけの2次的なものであることに気がつきました。各ご献体には多少の差異があり、その点を考慮した上で3次的な知識として定着させることは難しいと日々感じています。そのため、各実習に向けた日々の予習は非常に重要です。この段階で理解をしておくことで、実習をスムーズに行うことができま

す。また、全4回ある口頭試問も残すところあと1回となりました。口頭試問のある日は、いつもとは異なる緊張感と不安が入り混じった雰囲気です。今年の解剖学実習は週3回あり、1回口頭試問が終わっても次の口頭試問がすぐにあるので、なかなか気が休まりませんが、毎回充実した時間を過ごすことができます。解剖学実習という貴重な実習をさせていただいていることに感謝の気持ちを忘れずに残り数回頑張りたいと思います。

学年が上がると勉強や実習が増えるので、自由に使える時間は少なくなってくると思います。そのため、自由な時間をどのように過ごすかが重要だと思います。試験前に勉強すればいいと考えていると、国試の時などに苦労すると思うので、今から少しずつ知識を積み重ねていかなければいけないと思います。また、これからは単なる知識の暗記だけではいけないので、異なる科目の知識を統合するために、それぞれの事象や現象の関連性を考えて勉強していきたいと思います。

最後になりましたが、これからも学ぶべきことはたくさんあるので、残り3年間も日々頑張りたいと思います。

歯学部生の今

歯学科4年 小林航大

2020年春、辛かった3年生の実習を終え、私は希望に満ち溢れた春休みを過ごしていた。忙しくてできなかった旅行をしたり、4年の前期で最後と決めていた陸上競技の練習をしたり、様々な予定に心を躍らせていた。しかしそのタイミングでの新型コロナウイルスの流行である。私の春休みの予定はすべてキャンセルとなり、4月から始まった学校生活も従来のものとは大きく異なったものとなった。今回は学校生活がどのようなものになっていったかを書いていきたいと思う。

まず授業について。これは現在どの大学でも主流になってきているオンライン授業である。Zoomというアプリを用いることがほとんどであるが、授業によっては録画した講義動画をホームページにあげてくださるタイプの講義も存在する。家にいながら講義を受けることができるという絶大なメリットが存在するが、話し合いの授業の場合、会話が進まないのではや学校に行ったほうが楽では？という気持ちになってしまうというデメリットもある。

実習については学生が集まらずに行うというのは不可能である。そのためフェイスシールドを着用したり、実習前に検温を行うことで新型コロナウイルスの感染を予防している。このような予防策を講じてはいたが実習がスタートできたのは6月中旬のことである。それまではずっと自宅にこもり、オンライン授業に打ち込んでいたためこれが体にこたえた。引きこもり生活からのいきなり1～5限の実習。最初のうちは体がとんでもなく疲れ、昼夜逆転生活が一発で治ったのを覚えている。実習ありがとう。

次に部活動について。これに関しては軒並みす

べての行事、大会が中止となった。特に私たち4年生の代は引退の年であり、大会などは最後の大会となった人も多いただろう。ましてや今回のデンタルは新潟開催であったため、なくなってしまったのはとても名残惜しいことである。それだけでなく普段の練習なども禁止になってしまった。私の所属する陸上部では7月から練習が再開できたが、まだ再開できていない部活も多くあるらしい。そのためひっそりめると引退した同級生が多かったのではないだろうか。(私も含め)

最後に私生活である。ここが一番変わった部分である。今までであればテストが終われば飲みに行き、実習が終われば飲みに行き、何も終わってなくても飲みにもみんなで行っていたものだが、それもなくなってしまった。運動会などの行事もすべて消え、普段の疲れを癒す楽しみ事がすべて消滅するという目も当てられない状態になってしまった。今回のこの原稿の依頼を受けた際、写真もあれば添付して送ってほしいとお願いされたが、悲しいことに4年の前期の様子を収めた写真というのは一つもない。これも全部コロナのせいだ。もうこの際自撮り写真でも撮ってやろうかと考えたが少し冷静になった結果やめておいた。このように非常にさみしい私生活を過ごしていたのである。

ふと気づくともう4年の後期に差し掛かろうとしている。このペースで行くとあっという間に月日が過ぎ去り、すぐに本物の歯科医になろうという日がくるのではないかという気持ちになっている。0.5の期待と9.5の不安を抱えながらその日まで頑張っていきたいと思う。

歯学部生の今

歯学科4年 門倉朱音

入学当初は長いと思っていた6年間の学生生活も、気付けばもう4年生。学生生活の半分以上の時間が経っていました。今年度は新型コロナウイルスの影響によるカリキュラムの変更もありましたが、臨床科目の学習と実習に追われている毎日です。手一杯で辛いと感じることが多いですが、その中でも前向きに学習し、歯学の面白さを感じながら充実した日々を過ごしています。具体的に私の4月からの学生生活について紹介していきます。

新型コロナウイルスの影響により、4月始めの授業の開始が延期されました。春休みが延長されたものの、外出自粛の為、ほとんどを家の中で過ごしていました。この期間、中高の友人とオンライン飲み会で近況報告をしたり、挑戦してみたかった中国語の勉強したりと、時間のある時だからこそできることに取り組みました。

4月末からはオンラインでの講義が開始され、Zoomでのオンライン授業や配布された資料を読んで学習を進めました。約3か月間受講してみて、私はオンライン講義を率直によいと思いました。Zoomでの講義は講義室でのものと変わらず学習できました。ビデオを視聴する講義では、聞き逃した部分や分からなかった部分は何度も見返すことができ、大学の講義室で受講するのとはまた違った良さを感じました。さらに、朝の準備や通学時間がなくなり、休憩時間も仮眠を取ったりと時間を有効に活用でき、隙間時間で授業のレポートや復習などに取り組みました。一方で、疑問点や提出物の期限など1人だからこそ不安に思う時も多々ありました。1人で勉強していると、このままで大丈夫なのか不安になったり、考え方に偏りが生じてしまうため、大学に集まってみんなで

勉強することの重要性に改めて気づきました。

6月からは感染症対策のもと、週2回の実習が開始されました。また、PBLもカリキュラムが変更になり週2回のペースでオンラインで行われました。実習では全部床義歯の製作を行っています。3年生の後期で行った歯冠修復学実習以来の久々の実習に不安でしたが、実習書とビデオを視聴し予習を行い、取り組んでいます。週2回のうち1回は1から5限までフルで実習を行うことに加えて、感染症対策でフェイスシールドを着用しなければならず、気温が上がっていくにつれてとにかく体力勝負でした。PBLではZoomを用いてグループディスカッション、全体発表を行いました。最初は画面越しでのディスカッションに戸惑いもありましたが、ファシリテーターの先生にご指導をいただき、有意義な討論が行えたのではないかと思います。

前期の講義や実習を経て、2、3年生の時に学習した基礎科目の重要性を感じました。今までなんとなく学習していた基礎科目の内容が、臨床科目を学んでいる今になり知識が体系付けられ、少しずつ教科書の文章を臨床でのイメージにつながり、歯学の面白さを感じるようになりました。また、実習を通して、今までいくら教科書を読んでも分からなかった部分が理解できるようになったり、実習時の作業や技術は上手いかず手探りの状況の中で、実習時のコツや製作物の着眼点を自分なりに学ぶことができました。4年生の後期は前期よりもさらに実習科目が増え、忙しく精神的にも辛い時期になると思います。できないことに落ち込むのではなく、その中で少しでも多くの知識を得られるように、努力していきたいと思いません。

歯学部生の今

歯学科5年 伊藤多市

こんにちは。歯学科5年の伊藤多市と申します。

今この原稿を書かせていただいているのは夏休み真っ只中、8月中旬です。

本来なら4月からスタートする予定だった授業が、新型コロナウイルスの影響で6月中旬のスタートにずれ、実感的には2、3ヶ月程度といったところなのですが、5年生になりもう5ヶ月も経ったのかと少し驚いています。

登校可能になるまでの約2ヶ月間は、週に数回のオンライン授業と課された課題をこなす日々、春休みが延長されたような感覚でした。外にも自由に出ることができない状況下でのいわゆる「おうち時間」、皆さんはどのように過ごされたでしょうか。こんなにも長い「おうち時間」は今後の人生でも経験できないものと考え、もう少し有意義な時間の使い方はなかったのかと、少しばかり後悔の気持ちもあります。

そしてほとんどの人が初めての経験であったであろうオンライン授業も、担当教科の先生方の御尽力により、大きなトラブルもなく受講することができました。ありがとうございました。

迎えた6月中旬、やっと実習が始まりました。先輩方が経験されてきた実習量を、短縮された期間でこなさなければならないのではないかと不安もありましたが、今のところ順調に実習を進めることができている。5年生前期で行われる主な実習としては、総合模型実習、ポリクリです。総合模型実習は様々な症状を持つ顎模型に対し、自分で治療計画を考え、それを実践する実習です。4年生までに行った実習全ての総まとめと言えるのですが、学生それぞれ治療手順が異なるため、

隣の人と同じ真似事をするなどということはありません。実際にその患者さんの担当医になったような気持ちで実習に臨むことが要求されます。

ポリクリではグループごとに各科をローテーションし、実習を行います。実際に人の口腔内で器具を扱うことは初めてだったので、相互実習とはいえ戸惑いました。友達の顔を印象材まみれにしたり、無理に口角を引っ張り痛い思いをさせることもあります。でもそこはお互い様、相互実習にはお互い広い心で臨むことが重要だと感じました。新型コロナウイルスの影響で制限のあるポリクリにはなりましたが、臨床実習に上がる前に1つでも多くの知識をこの実習で学びたいと思います。

そして前期のビッグイベントとして忘れてはならないのがCBTとOSCEです。OSCEは9月末ですが、先日CBTを終えました。クラス全体としても良い結果だったようです。ひと段落、といった感じですがすぐ先のOSCE、そして最終目標である国家試験合格へ向けて、クラス全員で協力し合い、今後の実習も乗り切っていきたいと思っています。



5年生になって

歯学科5年 早川里佳

あっという間に5年生になり、解剖実習や各科の基礎実習を頑張っていたのもついでこの間のこのような気がしています。今年度は新型コロナウイルスの影響により異例なことばかりで、部活動は停止、大会やイベントは中止、アルバイトはシフトゼロと、これまでの日常が全て奪われてしまいました。この原稿を書かせていただいている今は夏休みですが、感染者数は増加の一途をたどっており、暑くてもマスクが必須で、気兼ねなく出掛けたり飲んだりというようなことはまだ出来なそうです。「歯学部生の今」というテーマではありますが、前述のとおり様々なイベントが中止となってしまい他に書くことがありませんので、真面目に勉強の話だけにさせていただきますと思います。

まず講義が始めの2か月にオンライン等で行われました。5年生の講義はそこまで多くなかったので、空いた時間を使ってCBTの勉強をしたりしていました。今年度からCBTの実施時期は7月下旬に早まり、本来ならば講義や実習と並行しての勉強となる予定でしたが、この状況でしたので、CBTに集中して勉強することが出来ました。友人が、オンラインで話しながら一緒に勉強しようと声を掛けてくれて、そのおかげで自粛期間中も規則正しい生活で勉強を続けることが出来たと思っています。

実習は6月半ばから始まりました。5年生の実習は総合模型実習と臨床予備実習（ポリクリ）の2つです。それぞれ週2日で、水曜日以外実習というスケジュールで慌ただしく毎日が過ぎていきました。総合模型実習は、様々な疾患が再現された病態模型を用い、自分で治療計画を考え、それ

をもとに実習を進めていくものです。自分で立てた計画も、実習を進めていくうちにこうした方がよかった、ああした方がよかったと、考えさせられることばかりです。この実習も残り数回となっております。期間内に終わられるかギリギリのところですが、何とかして終わらせたいと思います。ポリクリは、班ごとに各科を回ってそれぞれで実習を行います。今年度は例年よりも内容が縮小され、OSCEにつながる部分を中心に行われています。これまでの実習では全て模型に対してでしたが、ポリクリでは科によって相互実習も行われます。患者さんへの配慮を忘れない、清潔域・不潔域の区別を確実にするなど、模型実習の時も気を付けるのはもちろんですが、人に対してはそれ以上に気を付けなければならず、毎度緊張感を持って取り組んでいます。

このまま順調にいけば、10月からは臨床実習が始まります。まずはOSCEに向けて勉強し、臨床実習ではこれまで培った知識・技術が活かされるよう、初心を忘れずに日々精進したいと思います。



歯学部生の今

歯学科6年 青木 翔太郎

現在私たち6年は新潟大学病院で臨床実習を行っています。5年生までは講義や模型実習等で勉強をしてきましたが、臨床実習では日々患者さんからたくさんのお話を聞いています。患者さんの治療方針を考える際に実際に患者さんがどう思うか、どのような治療を希望しているかなどをお話することで、その患者さんの性格や生活習慣などより深く知ることができます。このように患者さんの生活背景も踏まえて口腔内全体の経過を追うことができるのはとても良い機会であり、その点で臨床実習は非常にやりがいを感じます。その分やるべきこともたくさんあり、1日が過ぎていくのがとても速く感じます。また今年は新型コロナウイルスの影響により例年のように実習を進めることができていません。診療制限等がありしばらく患者さんにお会いすることができず心配になったこともあります。このように大変なこともたくさんありますが、恵まれた環境で臨床実習を行うことができ、充実した毎日を送っています。また係の仕事や治療の相談を同級生と行う中で、6年目ではありますが絆も深まったように感じます。

一方で臨床実習中に常に頭に残っているのは歯科医師国家試験の存在です。自分が今年度の国家試験に合格できるかという不安と日々戦いながら実習を行っています。勉強をしなければならないことは理解していますが、毎日の実習やレポートに追われているというのが正直なところです。そのようなときに精神的な支えになるのが同級生の

存在です。実習の休み時間に何人かで集まり、それぞれのわからない箇所を質問しあうことで、お互いの進展状況を確認する良い機会となっています。6年目にして、同級生の存在がとても大きいことを実感しています。またこの時期になると進路の話が多くなり、病院見学で欠席する人や説明会に参加する人が何人か見受けられるようになりました。卒後のことは考えてはいましたが、いっきに現実味を帯びたように感じます。6年間ともに過ごしてきた同級生と離れるのはとても寂しいですが、それぞれの進路で活躍していくのを楽しみにしています。

臨床実習も残すところ2か月となりました。臨床実習や国家試験、卒後の進路についてと、忙しい日々を過ごしていますが大学生活の最後の1年を悔いを残さないように慢心せずに過ごしていきたいと思います。そのために1日1日を無駄にせず大切にしようと思いました。



歯学部生の今

歯学科6年 齋藤 瑠 郁

そういえば私たちもう6年生だね、と4月半ばにやっと気付くという感じで、あまり実感なく、最終学年になっていました。臨床実習期間もあと少しとなった今回、このページを執筆する2度目の機会をいただきましたので、1年間を振り返ろうと思います。

臨床実習の始まり、当院式の日、真っ直ぐな姿勢と真剣な顔を保って出席しましたが、1年間やっていけるかという不安と、初めて患者さんを担当することへの楽しみとで、内心ではまったく落ち着けなかったことを覚えています。診療の合間にひたすら引継資料を作成する初めの1ヶ月で、早くも臨床実習の多忙さを思い知ったこと、基本器具にさえ不慣れで、診療の全ステップに今の倍以上の時間を使っていたこと、カルテの開き方が覚えられなかったこと、他にもいろいろなことが懐かしいです。今年は診療制限期間もあり、例年以上に、現時点でもまだまだクラブリや義歯治療の真っ最中という人が多いです。

COVID-19の影響も含め、不安なことや大変なことも多くあった一方で、充実した毎日を過ごすことができている。臨床実習では、それぞれが12人ほどの患者さんを担当しています。私たちが診療を行うためには、レポートを作成して予習し、事前指導を受けることが必要です。診療後にはディスカッションやポートフォリオ作成で診療の反省を行います。専門科での診療見学も行っています。これらのことを通して、模型での基礎実習では理解や実践が不十分であったこと、つまり、患者さんへの態度や説明、「一口腔単位の治療」の重要性、そのための治療法の選択、技術など、多くを経験し学んでいます。そして、その経験や学びは、私たちが温かく受け入れてくださる患者さんと、丁寧に指導してくださる先生方の支

えの上にあることを常に感じています。

また、学生技工室で51期のみなどと過ごす時間も、充実した毎日に欠かせません。技工室は私たちの成長の場です。治療方針や治療計画を相談し合ったり、国家試験勉強をしたり、技工物を製作したりします。37人それぞれに得意分野があり、弱点を補い合えています。私の場合は、2年前の執筆の頃には苦手で辛かった技工操作も、周りのアドバイスを受けて、楽しく感じるようになりました。技工室は私たちが1日の大半を過ごす場でもあります。最近、思いもよらず、勉強の合間のルービックキューブやオセロが流行っています。

多忙だけど楽しい、と毎日が充実しているからこそ、臨床実習期間が残りわずか、その先には国家試験が待っていること、卒業しそれぞれが別の道に進むことに、不安や寂しさがあります。このまま全員で研修できればいいのに、とも考えてしまいます。しかし、将来のことを真剣に考えている51期のみなどとだからこそ、違った目標を持っていても一緒に努力できるのだと思っています。今後も全員で最大限努力し、立派な歯科医師になりたいです。



二年生になって

口腔生命福祉学科2年 島村 陽南子

今年度は新型コロナウイルスの影響のために、予定よりも2週間ほど遅れて新学期がスタートしました。感染予防のため講義も基本的にはzoomを用いた非対面形式で行われ、通常通りとはいかない現状がありました。その中で専門科目も始まり、PBLなどの新しい学習形式も入り始め、戸惑うことが多い日々を送っています。

二年生になってからPBLという学習形式が基本となっています。科目によっては、それを補うような形として講義があるというように感じます。PBL学習は、学生が主体となって学習し、問題を解決することが求められます。具体的には、グループに分かれて配布されたシナリオから事実を読み取り、疑問を抽出し、仮説を立て、疑問と仮説を基に学習課題を設定し、各自で学習内容を調べて、それを基にグループ討論（今年度は、メーリングリストやzoomを用いて行われています。）し、疑問を解決します。グループ討議では、調べて得た知識を基に自分の意見を述べます。その際には、信頼できるリソースから得た情報を基に、分かりやすく順序だった説明することが大切だと感じました。そのために学習課題の調査では、情報集めにとどまらないように、疑問の解決

を目指しながら進めようと思うようになりました。

早期臨床実習は例年では、歯科のある病院や介護老人福祉施設などにおいて見学実習が行われていたようですが、今年度は先生方から各施設について説明を受ける形となりました。先生方の説明によく耳を傾け、実際の現場を想像しようと励みました。歯科衛生士概論では、実際に歯科衛生士や社会福祉士として活躍されている方が大学で非常勤講師として講義をしてくださいます。今年度は直接お話を聞くことは出来ませんでした。資料を用意していただく形などで学ぶことが出来ました。歯科診療所の歯科衛生士の業務の回では、zoomを用いて歯科診療所から授業をしていただきました。歯科診療所の様子を知ることが出来て、非対面形式で行われていた利点を感じました。

非対面形式では友人の学習方法や態度が見えないので、自分の学習への意識や態度がより重要になっているような気がします。私は、テストを目前にして今までの学習への態度や生活習慣を後悔することが多々あります。強い気持ちをもって、日々生活していきたいと思いました。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科3年 谷川友菜

「え、もう夏休み？もうすぐ8月？」「3年次になってから早すぎるよね。」夏休みに入る前の友人との会話です。今年度大学に行くことが少なかったために月日が過ぎるのが早く感じました。例年通りであれば4月の中旬に3年次ガイダンスがあり、2週目から授業・実習が始まります。しかし今年度、授業が始まったのは4月の最終週、実習が始まったのは6月中旬でした。新型コロナウイルスの蔓延は私たち大学生にも大きく影響し、授業の形態が非対面のものとなったり、実習が中止になったりするなどと今まで経験したことのないものになりました。初めてのZOOMを使っただけの授業、実習ができない状況にとっても不安を感じながら3年次の授業が始まりました。

特に授業の形が大きく変わったと感じたのは幼稚園での歯科保健指導に向けた実習です。例年は6月上旬の幼稚園での実習に向け、学生同士で何度も内容を考え直し、練習を繰り返しながら授業が進み、実習当日は子どもたちと向き合い、子どもたちの反応や理解度を確認しながら歯科保健指導を行うものでした。しかし今年度は幼稚園での実習を行うことができなくなり、家の中で個人で歯科保健指導の内容を考え、最後に子どもたちが目の前にいることを想像して歯科保健指導を行いました。その様子を個人で動画を撮影し、ZOOMを用いて学生同士で意見を出し合うものになりました。私自身子どもたちと実際に触れ合うことができるこの実習を昨年度から楽しみにしていたため、中止となりとても残念でしたが、触れ合うことができなくてもそれぞれが考えた指導案を見て、私には思いつかない歯科保健指導の内容や子どもたちへの伝え方を学ぶことができました。

3年次となり福祉の授業が本格的に始まり、福祉の歴史や社会保障、生活保護、児童家庭福祉の制度などをZOOMでの講義やPBLを通して学びました。学ぶ範囲がとても広く内容が複雑であり、どう勉強していくのがよいのか試行錯誤している状態です。その制度がどうしてできたのか、どのような経過があり、どのような役割があるのか、制度の目的・対象・内容などを一つ一つ整理していきながら取り組んでいきたいと思っています。また、GDPが戦後最悪になるなど新型コロナウイルスの影響があり、安定した収入が得られない、学校に行く時間が少なく十分に勉強できない、社会との関わりが減っているなど、働く人、子ども、高齢者、社会の多くの人にそれぞれの困難が出てきていると思います。そして社会福祉士がかかわる制度が大きく変わっていくと思います。だからこそ新聞やニュースを見て現在の社会を理解し、これからどうなるかわからない状況の中で広い視野を持って考えていくことが大切だと感じています。

本来であれば、私は今年の夏にインターンシップに参加し、その経験から卒業後の進路について具体的に考えていこうと思っていました。しかし、それが中止となり、3年次で体験したいことが十分にできません。これからの施設見学や実習が十分に行えるかもわかりません。そのような状況ですが新型コロナウイルスの影響がある今だからこそ、この時間を将来のことのための情報収集の時間に活用できるのではないかと考えています。インターネットを使って個人で情報収集をすることはもちろんですが、先生方にお話をお伺いするなど自分から動いて、できることを見つけていきたいと思っています。

歯学部生の今

口腔生命福祉学科4年 中村 夢衣

初めまして。口腔生命福祉学科4年中村です。「歯学部生の今」というタイトルのもと、日々の学生生活について書かせていただきます。時の流れは早いもので、あっという間に最終学年となり、来年度から社会人となることに日々焦りを感じています。

本来であれば、4月から病院における臨床実習や様々な施設等における福祉実習などが始まる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で実習ができず、病院における実習は6月末よりようやく開始しました。実習初日はやはりとても緊張しました。うまくできるのかと不安でヒヤヒヤすることが多いですが、先生方や歯科衛生士の方々からご指導いただき、時には励ましの言葉をいただき、達成感を感じられることもあります。新型コロナウイルスの影響で日常生活が一変し、良くないイメージを抱きがちではありますが、こういった事態だからこそ、感染予防により注意しようと気を引き締めて実習しています。病院実習は月曜日から木曜日で私たちにとって木曜日は「華木」なので、木曜日の放課後には皆とお酒を飲みながら1週間の出来事や将来のことについて語り合いたいところではありますが、今のご時世それができないのがなかなかつらくもあります。

また、病院における臨床実習以外に社会福祉現場実習として、1か月間それぞれ選択した社会福祉施設において実習を行うのですが、これに関しても実際の現場において実習することが困難であり、代替実習を行うこととなりました。私の場合、現場にて実習できず、残念ではありましたが、

代替実習も新たな試みであり、これもまたとても新鮮な経験をすることができました。担当してくださった先生と毎週にオンラインまたはソーシャルディスタンスを考慮した面談を行うことで、新たに知ることが多く大変勉強になりました。

いつの間にか最終学年の1年も折り返しを迎えようとしています。実習は病院や社会福祉施設それぞれにおける実習を含めて11月いっぱいまで終了となります。残り少ない日数ですが、日々多くを学びたいと考えています。実習が終わるといよいよ国家試験の対策が本格的に始まります。歯科衛生士と社会福祉士の両方の国家試験を受験するのでどちらも両立しながら、ダブルライセンス取得を目指して努力したいです。しかしながら、ただ、勉強や実習を頑張った1年にするのもよいのですが、学生最後の1年でもありますので、なかなか難しいことではありますが、クラスの皆とたくさん思い出を作り、楽しかったと言える1年にしたいです。

